

拝啓 二〇二六年吉日、開かれたタイムカプセルのまわりには、どんな方々が集っていらっしやるのでしょうか？十年前の卒業生、保護者の皆様でしょうか？現PTA会長さんや役員の方皆さん、初代のPTA会長をお務めされた北山浩一さんや、この企画を担当された山崎恵美副会長、鴨下直哉副会長さんも同席されていらっしやることでしょうか。十年一昔と申しますが、日本は長寿社会が一層進み、十年という年月は、それほど顔かたち、お人柄は変わっていないのかもしれませんが、きっと、懐かしく十年前を回顧されていることと拝察します。

さて、大勢の人々の念願であった佐久平浅間小学校は、平成二十七年（二〇一五年）四月に開校しました。新幹線の駅や商業地に隣接した自然豊かな地域柄から、年々人口が増え続け、開校三年目には新入生が一五〇名を超え、五クラス体制となりました。全校児童も開校時、分離した岩村田小学校と全く同数でスタートした五五二名から、わずか三年目にして六六〇名となり、増加の一途をたどっています。一つの学年のブースは四学級対応ですので、やむを得ず一クラスだけは二階に上ってもらうこととなりました。人口減少社会が続く中、佐久平浅間小学校の児童数はどう推移しているか興味

のあるところです。

ところで開校から十年を経た今、佐久平浅間小学校には佐久平浅間小学校ならではの伝統や風土がありますか？

「子どもたちの学ぶ環境を潤いのあるものにしよう」と、子ども・保護者、職員が一緒になって育てたサファイニアのプランターは、今も学び舎を飾っているのでしょうか？PTAと共催で始めたお仕事ゼミは、今も特色あるカリキュラムとして残っているのでしょうか？子どもたちの子どもたちによる人権宣言「えがお宣言」は、子どもたちの心に根付き育っているのでしょうか？いつも子どもたちの歌声が響く学校にしたいという願いのもとに発案されたハローモニーロード（二階渡り廊下がいつしかこんなふうと呼ばれるようになりました）では、今も休み時間に歌声が聞こえてくるのでしょうか？この十年の間に、いくつかの取り組みは継続、進化し、またいくつかの取り組みは消えてしまったことでしょうか？

新しい学校を創っていくということは、真っ白な一枚の画用紙に、クレヨンで絵を描いていくことに似ています。自由に描いてよいくらいのことほど難しい物はありません。何に目を向け、何を描くか。どんなデザインにして何色のクレヨンを使おうかと思案しな

がらの毎日でした。そんな時、いつも新しい挑戦について相談させていただいたのは北山PTA会長さんをはじめ役員の方皆さんでした。子どもたちのために、どうしたら実現できるかについて一緒に悩み、物心両面で惜しみない支援をいただきました。学校よき理解者・協力者であり、主体的で、創造的で、利他の精神に溢れた『日本一のPTA』でした。感謝以外の言葉は見つかりません。

進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンは、『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である』と言っています。だから、十年前、私たちが開校当時に挑戦した学校作りの取り組みが変化・消滅していても特段驚きはしません。しかし、この手紙を聞いたPTAの皆さんの精神は、十年前と変わらず、子どもを真ん中に据え、主体的で、創造的で、利他の精神に溢れた『日本一のPTA』であって、くれることを願ってやみません。

佐久平浅間小学校の益々の発展を祈念して記す

平成二十八年三月十三日

初代校長 神津 長生

佐久平浅間小学校PTA会長様